

## 本巢都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更

都市計画区域の整備、開発及び保全の方針を別のとおり変更する。

## 本巢都市計画

### 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更理由書

本区域は、岐阜都市計画区域及び揖斐都市計画区域に隣接しています。岐阜都市計画区域とは岐阜圏域として同一の圏域に属していますが、揖斐都市計画区域とは根尾川を挟んで隣接しており、地形的な連坦が弱い状況となっています。

都市的な広がりとしては、本区域を南北に縦断する(国)157号にて北方町、(主)北方多度線や樽見鉄道にて瑞穂市と結ばれており、本区域の土地利用としては北方町から(国)157号沿道の市街地と連坦しています。さらに、東西方向の都市間連携軸である(主)岐阜関ヶ原線により、岐阜都市計画区域と揖斐都市計画区域を結んでいます。

こうした中で、本区域は(都)東海環状自動車道、(都)長良糸貫線の整備が計画されるなど、新たな発展に向けた可能性を有しており、周辺の市町や都市計画区域との都市間連携を推進することで、都市機能の一層の集積・強化と本区域並びに周辺都市全体の生活サービスの向上を図り、周辺都市とともに発展していくことが求められています。さらに、優良な農地や独自の緑豊かな自然等の地理的・自然的に恵まれた条件を最大限に活かすことで、都市近郊の交流地域、農業地域等として自然と人が共生できる区域となることが期待されています。

このようなことから、本区域の都市づくりの基本理念を「自然と都市の調和の中で 人がつながる 活力あるまち・本巢」と設定し、「活力を創造するまちづくり」、「快適に暮らせるまちづくり」、「魅力的な自然に囲まれた安全・安心なまちづくり」を目標として、都市づくりを進めます。

本区域における以上のような都市の将来像について、2018年(平成30年)に実施した都市計画基礎調査結果等を踏まえ、都市の発展の動向、人口等の現状及び2030年(令和12年)を目標年次とした将来の見通し等を勘案し、主要な土地利用、都市施設及び市街地開発事業等についてのおおむねの配置、規模等を定め、一体の都市として総合的に整備、開発及び保全を図るため、別のおり変更するものです。

本巢都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針  
(本巢都市計画区域マスタープラン)

---

岐 阜 県

## 目 次

1	当該都市計画区域における現状と課題	1
1-1	既定計画におけるまちづくりの方針	1
1-2	まちづくりの現況	1
1-3	当該都市計画区域の課題	2
2	都市計画の目標	4
2-1	都市づくりの基本理念	4
2-2	地域毎の市街地像（まちづくりのイメージ）	4
2-3	各種の社会的課題への都市計画としての対応	6
2-4	当該都市計画区域の広域的位置づけ	9
3	区域区分の決定の有無	10
3-1	区域区分の有無	10
4	主要な都市計画の決定の方針	14
4-1	土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針	14
1.	主要用途の配置の方針	14
2.	市街地における建築物の密度の構成に関する方針	15
3.	市街地の土地利用の方針	15
4.	その他の土地利用の方針	16
4-2	都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針	17
1.	交通施設の都市計画の決定の方針	17
2.	下水道及び河川の都市計画の決定の方針	19
3.	その他の都市施設の都市計画の決定の方針	20
4-3	市街地開発事業に関する主要な都市計画の決定の方針	21
1.	主要な市街地開発事業の決定の方針	21
2.	市街地整備の目標	21
3.	その他の市街地整備の方針	21
4-4	自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針	21
1.	基本方針	21
2.	主要な緑地の配置の方針	22
3.	実現のための具体の都市計画制度の方針	23
4.	主要な緑地の確保目標	23

## 1 当該都市計画区域における現状と課題

### 1-1 既定計画におけるまちづくりの方針

本巢市は本巢市第2次総合計画（2016年度～2025年度）を策定し、まちづくりの将来像を『自然と都市の調和の中で 人がつながる 活力あるまち・本巢』と定め、以下のような基本方向（施策の柱）に基づくまちづくりを進めています。

まちづくりの基本方向

- ① 自然環境・防災 ～自然と共生する安全なまち～
- ② 生活環境・安全 ～住みやすく安心して暮らせるまち～
- ③ 健康・福祉・医療 ～人にやさしく生きがいのあるまち～
- ④ 子育て ～地域の子どもをみんなで育てるまち～
- ⑤ 産業・雇用 ～資源を活かして活力を創造するまち～
- ⑥ 教育・文化 ～学び合い、育ち合い、文化を伝えるまち～
- ⑦ 行政運営・市民協働 ～市民と行政がともにつくる自律したまち～

これら7つの基本方向から、本巢都市計画区域（以降、「本区域」という。）における都市計画としてのまちづくりの方針は以下のように整理します。

- 活力を創造するまちづくり
- 快適に暮らせるまちづくり
- 魅力的な自然に囲まれた安全・安心なまちづくり

### 1-2 まちづくりの現況

本区域では、少子高齢化が進む一方で、（都）東海環状自動車道（仮称）糸貫インターチェンジの開通のインパクトによる産業の活性化が期待されています。

また、用途地域指定のない区域全体に指定された特定用途制限地域により、効果的な土地利用のコントロールを行っています。

#### (1) 活力を創造するまちづくり

- ・ 本区域内においては、全体的に若年人口の減少と高齢者人口の増加が進み、人口維持に向けた企業誘致や産業創出に取り組んでいます。
- ・ 本区域は、（国）157号や（主）岐阜関ヶ原線の沿道に既成市街地が拡がり、樽見鉄道の主要駅や（仮称）糸貫インターチェンジ周辺や大野神戸インターチェンジへとつながる南西部に都市の拠点形成されています。

- ・ インターチェンジ開通の効果を十分に発揮するためアクセス道路等の都市基盤の整備を推進しています。
- ・ 2016年に屋井工業団地の売却が完了するなど、さらなる工業用地のニーズが高まっています。

## **(2) 快適に暮らせるまちづくり**

- ・ 用途地域内では、大規模な低・未利用地がなく、小規模に点在しているのみとなっており、新たな大規模開発は難しい状況となっています。
- ・ 用途地域外では、公共的な用地を除く都市的土地利用の割合は18.5%と低く、特定用途制限地域の指定により、スプロール的な開発は抑制されています。

## **(3) 魅力的な自然に囲まれた安全・安心なまちづくり**

### ① 魅力ある自然環境や歴史文化資源の保全・活用

- ・ 能郷白山や根尾川といった優れた景観や自然環境、歴史文化資源を数多く有しており、各地域において維持・保全する活動が行われています。
- ・ 今後、人口減少が進行していくなかで、地域の特色や伝統が消失してしまうおそれがあり、地域活力の低下につながることを懸念されます。

### ② 安全・安心なまちに向けた防災・減災対策の推進

- ・ 自然災害に備え、ハザードマップを作成し、浸水想定区域や土砂災害特別警戒区域等を周知しています。
- ・ 治山・治水・砂防事業等の促進や公共公益施設の耐震化、避難路の整備を推進しています。
- ・ 防災訓練の実施や災害ボランティア活動の普及・啓発などを推進しています。
- ・ 旧耐震基準の建築物の診断・改修、通学路を中心としたブロック塀の撤去・改修を推進しています。

## **1-3 当該都市計画区域の課題**

まちづくりの現況を踏まえた本区域の課題は以下のとおりです。

### **(1) 交流や定住に関する課題**

観光・交流及び魅力ある暮らしや住まいの場を創出するために、(都)東海環状自動車道とそのアクセス道路の整備とともに、まちの活力の維持・向上及びまちづくり活動に対する支援の推進を図る必要があります。

- ・ 高齢化社会に対応したまちづくりへの対応（バリアフリー化の推進）
- ・ （都）東海環状自動車道、（都）長良糸貫線等の都市計画道路の整備促進
- ・ （仮称）糸貫インターチェンジ、（仮称）本巣パーキングエリア及び大野神戸インターチェンジへつながる（主）岐阜関ヶ原線整備を活かした活性化
- ・ インターチェンジ周辺及びアクセス道路沿いの土地利用規制の見直し
- ・ 住民参加型まちづくりの推進
- ・ 企業誘致や交流による産業創出、雇用の確保

### **(2) 生活環境に関する課題**

都市計画区域全体の視点から、基本的なまちづくりの計画に基づく生活環境を確保するために、適切な土地利用への規制・誘導に向けた都市計画の見直しと道路網の構築や有事の際の防災拠点等の都市基盤の整備を図り、自然と人が共生し、便利で災害・犯罪に強い安全・安心なまちづくりを行う必要があります。

- ・ 都市の拠点形成に向けた都市基盤の充実
- ・ 公共交通の充実
- ・ 身近な生活利便施設の整備促進
- ・ 幹線道路沿道の土地利用の規制・誘導
- ・ 公園や緑地の基盤整備拡充及び緑のネットワークづくり
- ・ 都市及び地域の防災・防犯力の強化
- ・ 公共公益施設の耐震化

### **(3) 自然環境に関する課題**

人と自然が共生しながらまちを発展させていくために、環境に配慮し、市民や事業者、行政が協力しながらまちづくりを行う必要があります。

- ・ 都市機能の集積化と自然との共生
- ・ 水害対策としての河川改修を促進
- ・ 防災性も意識した森林機能の保全
- ・ 優良農地の生産基盤としての維持
- ・ 生活排水の下水道接続や合併処理浄化槽設置の促進
- ・ 豊かな自然や魅力ある歴史文化資源の保全・活用

## 2 都市計画の目標

### 2-1 都市づくりの基本理念

本区域の都市づくりを進めていく上での課題を解決するため、『自然と都市の調和の中で人がつながる 活力あるまち・本巢』を都市づくりの基本理念とし、以下に示す目標を設定してまちづくりを進めていきます。

#### 【都市づくりの基本理念】

#### 『自然と都市の調和の中で 人がつながる 活力あるまち・本巢』

目標1：  
活力を創造するまちづくり

- ・ インターチェンジを活用した企業誘致による新たな産業の創出
- ・ 広域ネットワーク形成による既存企業と連携した活力の向上

目標2：  
快適に暮らせるまちづくり

- ・ 適正な土地利用の規制・誘導による集約型都市構造の維持
- ・ 道路ネットワークの形成と生活基盤の充実による快適性の向上

目標3：  
魅力的な自然に囲まれた安全・安心なまちづくり

- ・ 豊かな自然や歴史文化資源の保全・活用による魅力の向上
- ・ 自然災害に強い防災・減災まちづくりの推進

### 2-2 地域毎の市街地像（まちづくりのイメージ）

本区域における都市機能上の位置付けや役割にあわせて、土地利用の観点から「住居地域」、「商業地域」、「工業地域」、「森林・緑地地域」、「農業・集落地域」及び「都市活動調整ゾーン」の6つの地域のほか「コミュニティ拠点」、「交通拠点」の2つの拠点を位置づけ、地域毎のまちづくりイメージを示します。

#### (1) 住居地域

- ・ 既存市街地で住居系用途地域を指定している地区を中心として、良好な住環境を保全する地区とします。

#### (2) 商業地域

- ・ (仮称) 糸貫インターチェンジの南部及び(主)岐阜関ヶ原線の沿道に位置する地区では、大

型商業施設を中心に、にぎわいを創出する地区とします。

### (3) 工業地域

- ・ 大規模工業施設集積地、既存工場が立地する地区やその周辺は、地域経済を支える主要なもののづくりの場として一団の工業地区として効率的な土地利用を目指す地区とします。

### (4) 農業・集落地域

- ・ 田園風景や営農基盤の保全及び有効活用を図るとともに、これらと調和した良好な住環境を備えていく区域として位置付けます。

### (5) 森林・緑地地域

- ・ 船来山及び文殊の森周辺の地区は、本区域が誇る豊かな緑を活用した憩いともてなしを図る地区とします。

### (6) 都市活動調整ゾーン

- ・ 幹線沿道周辺地域等において、営農環境との調和に十分に留意しながら、生活利便性やまちのにぎわいの向上に資する取り組みを計画的に進める区域として位置付けます。
- ・ (仮称) 糸貫インターチェンジ周辺、(仮称) 本巣パーキングエリア周辺を含む(都)長良糸貫線の沿道の地区等では、営農環境との調和に十分に留意しながら、主要なもののづくりの場として、拠点形成を図る地区とします。

### (7) コミュニティ拠点

- ・ 庁舎周辺の地区は、主として行政サービスの機能を担いつつ、市民の日常生活を支援する機能の集積を図る地区とします。

### (8) 交通拠点

- ・ 広域的な道路ネットワークの拠点として(仮称)糸貫インターチェンジ周辺を、市内及び近隣市町との公共交通ネットワークの拠点として、樽見鉄道モレラ岐阜駅周辺を、市内の公共交通ネットワークの主要な拠点として樽見鉄道本巣駅周辺をそれぞれ位置付け、多くの人が行き交うまちの玄関口として様々な拠点形成を目指す地区とします。

図：地域区分図



### 2-3 各種の社会的課題への都市計画としての対応

社会的課題に対する本区域における都市計画上の対応は以下のとおりです。

#### (1) 集約型都市構造の実現

##### ① 都市機能が集約されたコンパクトな都市

- ・ 高齢化への対応や住民の利便性向上を目指した公共交通の充実を図ることで、周辺集落と市街地を連携し、集約型都市構造の実現を目指します。
- ・ 市街地においては、効率的・効果的な行政サービスの提供、秩序ある合理的・効率的な土地利用を推進するために、都市間連携軸である(国)157号沿道や(主)岐阜関ヶ原線沿道の既成市街地、都市の拠点となる樽見鉄道の主要駅や(仮称)糸貫インターチェンジ及び(仮称)本巢パーキングエリアの周辺地区において、防災機能を兼ね備えた公園の整備等による都市の拠点を形成します。
- ・ 市街地外においては、自然・営農環境の保全と共生や新たな土地利用の需要に対しては、

特定用途制限地域等に基づく効率的な土地利用規制・誘導方策の検討を行い、無秩序な市街化の進展を抑制し、周辺の田園や里山の環境との調和を図ることで、農地等のまとまりを保全・確保します。

## (2) 環境負荷の軽減

### ① 環境にやさしい都市と交通システムの構築

- ・ 公共交通機関の利用促進、道路網の整備や都市施設の緑化の推進など、環境にやさしい都市と交通システムを構築します。

### ② 下水道への接続や合併処理浄化槽設置の促進

- ・ 河川の水質保全を図るため、下水道への接続や合併処理浄化槽設置の促進により、生活排水の適正処理に努めます。

### ③ 地域が主体となった自然環境の維持・管理

- ・ 緑豊かなまち並み・景観の形成や、公園、河川での緑化を進めるとともに、これらの維持・管理も含めて、住民が主体となって取り組む活動を促進・支援していきます。

## (3) 都市の防災・防犯性の向上

### ① 市街地の防災性能の向上

- ・ 公共施設、小中学校等の防災資機材の充実を図るとともに、企業・事業所との災害応援協定の締結を進めるなど、防災拠点の拡充に努めます。
- ・ 既成市街地における狭い道路の解消により、消火活動や救助・救急活動に必要な道路の確保を図ります。
- ・ 建物が密集する地区では、避難路や避難場所までの道路、公園・緑地等の防災空間確保を進め、あわせて建築物等耐震化促進事業により、耐震診断、耐震補強工事に対する支援を推進します。
- ・ (仮称)本巢パーキングエリア周辺は、支援物資の集積所や応急復旧活動の拠点などの防災機能を確保します。

### ② 安心して暮らせる都市環境の形成

- ・ 通過交通の排除や街頭防犯カメラ・街路灯の設置、道路や公園等を防犯に配慮した構造とするなど、交通事故や犯罪が発生しにくい環境づくりに努めるとともに、地域住民による自主防犯組織の育成や活性化を図り、防犯に対する環境の向上を図ります。
- ・ 中心市街地のにぎわいや、都市の魅力の向上、地域コミュニティの形成や住民との協働

まちづくりによって、防犯性の高い都市づくりを推進します。

### ③ 砂防・治山・治水の推進

- ・ 土砂災害が危惧される地域について、治山・砂防事業等のハード対策事業を促進するとともに、危険箇所の増加抑制に向けた森林の保全・育成や土砂災害特別警戒区域等の指定・周知により、無秩序な宅地開発等の抑制等のソフト対策事業を促進します。
- ・ 河川については、流域での総合的な対策が必要なことから、民間開発等の宅地化に伴う雨水調整機能の確保、雨水排出抑制について指導します。
- ・ 集中豪雨等による雨水の増加に対応するため、河川や排水路整備を推進し、安全な生活環境の確保に努めます。

## (4) 都市のユニバーサルデザイン化、バリアフリー化

### ① 誰もが暮らしやすい都市の形成

- ・ 多くの人が利用する公共施設等において、バリアフリー化を進め、また、施設の新設・更新の際はユニバーサルデザインに配慮した施設整備を進めます。

## (5) 良好な景観の保全・形成

### ① 特徴的なまちの顔・軸づくり

- ・ (仮称) 糸貫インターチェンジ周辺は、景観形成重点地区としての指定を検討し、来訪者を迎えるまちの玄関口として、本区域をイメージできるような修景整備や、周辺のまちづくりと結びつけた景観誘導を進めます。
- ・ 庁舎周辺等の都市の拠点となる地区については、緑化による周辺環境との調和や、幹線道路では、屋外広告物の規制・誘導、景観に配慮した空間づくりや各拠点へ誘導する案内看板の統一化等に取り組みます。
- ・ (都)長良糸貫線沿道は、周辺の景観や環境に配慮した景観形成基準や建築物の形態規制を検討します。

### ② 美しい郷土景観の保全

- ・ 農業や林業を中心に発展してきた本区域では、市南部で優良農地が、市北中部で森林が広がり、美しい景観を形成しています。景観計画等の適切な運用により、良好な田園風景や、まちの景観を保全します。
- ・ 根尾川、糸貫川、犀川等の主要な河川については、親水空間の維持に努めます。

### ③ 地域毎の景観づくり

- ・ 市街地整備や各地域のまちづくりにあわせた良好な景観を創出するため、市民の意向を踏まえた景観計画等のほか、市民が主体となった緑化活動など日常的に景観づくりに関わっていけるような仕組みを検討します。
- ・ 企業誘致の際には、周辺環境への配慮とともに、景観・緑化にも配慮した統一感のあるまちづくりに向け、規制・誘導などについて検討します。
- ・ 2019年に国の史跡指定を受けた船来山古墳群については、保存・活用を推進し、風致地区の指定についても検討します。

## 2-4 当該都市計画区域の広域的位置づけ

本区域は、岐阜都市計画区域及び揖斐都市計画区域に隣接しています。岐阜都市計画区域とは岐阜圏域として同一の圏域に属していますが、揖斐都市計画区域とは根尾川を挟んで隣接しており、地形的な連坦が弱い状況となっています。

都市的な広がりとしては、本区域を南北に縦断する(国)157号にて北方町、(主)北方多度線や樽見鉄道にて瑞穂市と結ばれており、本区域の土地利用としては北方町から(国)157号沿道の市街地と連坦しています。さらに、東西方向の都市間連携軸である(主)岐阜関ヶ原線により、岐阜都市計画区域と揖斐都市計画区域を結んでいます。

こうした中で、本区域は(都)東海環状自動車道、(都)長良糸貫線の整備が計画されるなど、新たな発展に向けた可能性を有しており、周辺の市町や都市計画区域との都市間連携を推進することで、都市機能の一層の集積・強化と本区域並びに周辺都市全体の生活サービスの向上を図り、周辺都市とともに発展していくことが求められています。さらに、優良な農地や独自の緑豊かな自然等の地理的・自然的に恵まれた条件を最大限に活かすことで、都市近郊の交流地域、農業地域等として自然と人が共生できる区域となることが期待されています。

## 3 区域区分の決定の有無

### 3-1 区域区分の有無

本区域の現状及び今後の見通しを分析し、「市街地の拡大の可能性」、「良好な環境を有するコンパクトな市街地の形成」及び「緑地等自然的環境の整備又は保全への配慮」の視点から区域区分の有無を定めます。

#### (1) 本区域の現状及び今後の見通し（展望）

##### ① 地形その他の地理的条件

- ・ 本区域は岐阜県南西部に位置しており、東部は岐阜市・北方町、西部は大野町、南部は瑞穂市に接しています。周辺市町との地形的つながり（平坦地のつながり）については、岐阜市、瑞穂市、北方町とは連続しているものの、大野町とは根尾川により分断されています。
- ・ 市街地は本区域中南部の(国)157号沿道を中心に展開しています。
- ・ 本区域北部及び東部の山裾や平坦部には、農地と山林に囲まれた昔ながらの集落がみられます。
- ・ 犀川、糸貫川をはじめ多くの河川が南北に流下していますが、根尾川のような大きな地形分断要素と言えるものはありません。

##### ② 人口の増減及び分布の変化と今後の見通し

- ・ 本区域内の人口は、31,198人（2015年）です。2010年以降減少に転じており、その傾向が続くと推計されています。
- ・ 可住地人口密度は、本区域全体で13.6人/haです。
- ・ 可住地人口密度分布において60人/haを超えているのは、用途地域内となっており、その他の地区は20人/ha未満の低密度な分布となっています。
- ・ (国)157号及び(主)北方多度線沿道では市街地の連坦がみられますが、人口集中地区(DID)は未形成となっています。

##### ③ 産業の現況と今後の土地需要の見通し

- ・ 工業については、事業所数は減少傾向にありますが、従業者数及び製造品出荷額等については2011年以降増加傾向にあります。(都)東海環状自動車道の整備に伴うインパクトを考慮すると、今後、工業系の土地需要の高まりが予想されます。
- ・ 商業については、商店数、従業者数及び年間商品販売額が2011年以降増加傾向にあり

ます。(都)東海環状自動車道及び(都)長良糸貫線の整備、並びに大野神戸インターチェンジ整備に伴う(主)岐阜関ヶ原線の4車線化整備を考慮すると、今後、(仮称)糸貫インターチェンジ周辺や(都)長良糸貫線及び(主)岐阜関ヶ原線沿道での土地需要の高まりが予想されます。

#### ④ 土地利用の現況等

- ・ 本区域の都市的な連坦の状況としては、北方町の市街地と(国)157号沿道で連坦しており、岐阜市との直接的な連坦はみられません。
- ・ 商業地については、本区域中央部の既成市街地と、南部の(主)岐阜関ヶ原線沿道に大型商業施設が立地しています。また、(国)157号沿道においては、沿道型の商業系土地利用がなされています。
- ・ 住宅地については、本区域中央部の商業地に隣接する地域をはじめ、(国)157号に近接した地域に集積しています。
- ・ 工業地については、本区域西部の根尾川沿川及び本区域中央部の既成市街地に大規模工業施設集積地があります。
- ・ 本区域の平坦部の全域で農地が広がり、本区域北部及び北東部の山裾や農地に囲まれた集落があります。
- ・ 砂防指定地は河川等の上流部や船来山の一部に、急傾斜地崩壊危険区域及び土石流危険溪流は本区域外の山裾を中心に点在しています。

#### ⑤ 都市基盤施設の整備の現況と今後の見通し

- ・ 都市計画道路の整備率は3.7%であり、用途地域内において、整備済みの都市計画道路はなく、幹線道路等の整備を進めます。
- ・ 汚水処理施設については、特定環境保全公共下水道や農業集落排水・合併処理浄化槽により、2017年度の汚水処理人口普及率が全体で86.8%となっており、普及率の向上に向けた整備を促進します。
- ・ 本巣市が管理する公園については、街区公園として2箇所0.62haが都市計画決定及び整備が完了しており、その他に都市公園が7箇所、都市公園以外が14箇所ありますが、都市計画区域人口一人当たりの公園等の面積は9.9㎡/人であり、本区域全体としては不足しており、公園や緑地の整備を図ります。
- ・ 用途地域内においては基盤整備が進んでおり、その一部では土地区画整理事業が完了しています。

⑥ 産業振興等に係る計画の策定又は大規模プロジェクト等の実施

- ・ (都)東海環状自動車道、(仮称)糸貫インターチェンジ及び(仮称)本巢パーキングエリアの整備が計画されています。
- ・ 従来の企業誘致に加え、市のオーダーメイド型の企業誘致を積極的に実施することで、(都)東海環状自動車道の整備効果を十分発揮させるとともに、計画的な土地利用を推進します。

**(2) 区域区分の有無**

① 市街地の拡大の可能性

- ・ 既成市街地内に宅地化が可能な未利用地は多くありませんが、周辺の集落をはじめとして、将来的にも人口が停滞・減少傾向にあることを考慮すると、今後、住居系の急速な市街地拡大の圧力は発生しないと予想されます。
- ・ 本区域においては広い範囲で産業立地が進んでおり、(都)東海環状自動車道の整備により、今後も産業系用地の需要が発生する可能性や開発圧力が高まることが予想されますが、用途地域による適正な土地利用の誘導と用途地域外における特定用途制限地域等の指定による無秩序な市街化の抑制により、計画的な市街地形成を推進します。

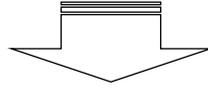
② 良好な環境を有するコンパクトな市街地の形成

- ・ 本区域のまちづくりのイメージとしては、田園居住環境の維持・保全や、幹線道路を軸とした市街地形成・土地利用展開であることから、開発規制のみならず、用途地域等を活用したきめ細やかな土地利用の規制・誘導を図ることが必要となります。
- ・ 既成市街地内においては、緑豊かな戸建て住宅を中心とした市街地が形成されており、今後、都市計画道路や都市計画公園の整備の推進により、良好な居住環境を提供し、幹線道路沿道の大型商業施設等とのメリハリのある市街地の形成を図ることが可能です。
- ・ 既存の幹線道路沿道における都市的土地利用については、幹線道路沿道という位置的ポテンシャルに基づく局部的なものであり、用途地域による適正な土地利用の誘導と用途地域外における特定用途制限地域等の指定による無秩序な市街化の抑制により、環境の悪化を防ぐことが可能です。

③ 緑地等自然的環境の整備又は保全への配慮

- ・ 用途地域外においては、近年は宅地開発も沈静化しており、将来的にも人口増加は見込まれない状況です。
- ・ 本区域は全域的に農地の多くが農業振興地域における農用地区域に指定されており、さらに特定用途制限地域等の指定がされていることで、開発による無秩序な自然環境喪失

の可能性は低いと言えます。



以上により、本区域においては市街地の拡大の可能性はあるものの、区域区分によらずとも用途地域による誘導や、特定用途制限地域による抑制により、無秩序な市街化を抑制し、良好な環境を有するコンパクトな市街地を形成することが可能なことから、区域区分は定め  
ないものとしします。

## 4 主要な都市計画の決定の方針

### 4-1 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針

#### 1. 主要用途の配置の方針

##### (1) 住居系

- 本区域南部及び中央部に集積がみられる既成市街地は、低層・低中層の住宅を基本とした居住環境の保全を図るとともに、日常生活に必要な施設(一定規模以下の商業施設、教育施設、福祉施設等)の立地による生活利便性の向上と、生活基盤となる道路等の維持・整備に努めます。

##### (2) 商業系

- 本区域中央部の商業地域は、行政サービスや大型商業施設を中心とした既存の集積を活用するとともに、(仮称)糸貫インターチェンジの整備による広域的な交流によるにぎわいの場として、商業施設をはじめとする各種サービス施設の集積立地を誘導するとともに、地域住民や周辺都市住民の利用に配慮した利便性の高い空間形成を図ります。
- 既存の大型商業施設が集積する地区を大規模集客施設立地エリアとして位置付け、機能の発展・維持を進めます。
- 既に住宅以外の施設立地も進んでいることから、交通状況(渋滞・事故)、自然環境、騒音・廃棄物の発生等の周辺環境への配慮や、無秩序な開発の誘引による公共コストの増加、地域固有の価値の破壊を招かないように、計画的な開発を目指した各種制度による規制・誘導を行います。

#### 【優先的かつ計画的に市街化(用途地域指定)を図るべき区域】

区域	方針
政田地区	・(都)東海環状自動車道大野神戸インターチェンジ周辺地域及びこれにアクセスする(主)岐阜関ヶ原線の4車線化などにより、交通利便性を活かした商業系土地利用を検討。

##### (3) 工業系

- 本区域中央部、南部及び南西部の工業地域は、大規模工業施設や地域産業を支える工場等の集積立地及び機能維持を図るとともに、周辺の居住環境、営農環境への影響に配慮するように誘導します。

## 【優先的かつ計画的に市街化（用途地域指定）を図るべき区域】

区域	方針
温井地区	・(都)東海環状自動車道大野神戸インターチェンジ周辺地域及びこれにアクセスする(主)岐阜関ヶ原線の4車線化などにより、交通利便性を活かした工業系土地利用を検討。

## 2. 市街地における建築物の密度の構成に関する方針

## (1) 住居系

- ・住宅地については、周辺環境との調和を図りながら中密度（容積率 200%）を基本として適切に定めます。

## (2) 商業系

- ・商業地については、周辺環境との調和を図りつつ、ゆとりあるまち並み形成に向け低密度（容積率 200%）を基本として適切に定めます。

## (3) 工業系

- ・工業地については、ゆとりある就業環境や防災上の安全性を確保するため、中密度（容積率 200%）を基本として適切に定めます。

## 3. 市街地の土地利用の方針

## (1) 用途転換、用途純化又は用途の複合化に関する方針

- ・市南西部の市街地周辺において、大野神戸インターチェンジの整備に伴う(主)岐阜関ヶ原線の拡幅にあわせ、用途地域内の低・未利用地の解消及び既存の工業系土地利用との一体性を考慮しつつ、新たに工業系用途地域への変更及び指定を行います。

区域	方針
国領地区	(都)東海環状自動車道大野神戸インターチェンジ周辺地域及びこれにアクセスする(主)岐阜関ヶ原線の4車線化などにより、商業系から交通利便性を活かした工業系へ用途地域の変更を検討

## (2) 居住環境の改善又は維持に関する方針

- ・優良農地や周辺の豊かな自然環境との共生を目指し、自然景観との調和に十分に配慮しながら、住環境の維持・保全を図ります。
- ・市街地においては、既存集落の住環境を確保するために地区計画を活用することで、安全・

快適な居住環境を形成します。

- ・ 本巢市道路網整備計画に基づく道路整備による地域の骨格づくりと土地利用施策の展開による生活環境の整備を行います。

### **(3) 都市内の緑地又は都市の風致の維持に関する方針**

- ・ 船来山など市街地近郊に位置する森林・丘陵地、まとまりのある緑が残されている貴重な里山は、良好な市街地景観を支える要素としての役割も考慮し、風致地区等の指定を検討し、良好な環境・景観の保全に努めます。

## **4. その他の土地利用の方針**

### **(1) 優良な農地との健全な調和に関する方針**

- ・ 用途地域外に広がる農地については、農業振興地域の整備に関する法律等の都市計画制度以外の規制との調整により、開発の抑制に努め、農地を保全します。
- ・ 田園の環境・風景と調和した、ゆとりと趣のある集落環境を維持するため、用途地域外においては、地域の特性に応じた特定用途制限地域を指定することで、居住環境に悪影響を及ぼし、周辺の田園風景を阻害する建築物の立地を抑制する他、地区計画を活用することで、集落内の農地や集落縁辺の農用地区域に含まれない農地を計画的に活用し、集落のまとまりを確保します。

### **(2) 災害防止の観点から必要な市街化の抑制に関する方針**

- ・ 土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域等の指定や周知により、無秩序な宅地開発等を抑制するとともに、農地、保安林、砂防指定地、急傾斜地崩壊危険区域などは、災害防止の観点から保全し開発を抑制し、ハザードマップによる周知により開発指導を行います。また、必要な開発等を行う場合には、雨水・土砂流出の抑制に努めます。

### **(3) 秩序ある都市的土地利用の実現に関する方針**

- ・ 集約型都市構造の実現に向け、主要な道路沿道や既存工業施設の周辺を除き、原則として用途地域外での開発は抑制します。ただし、各地区の特性に応じた都市機能集積や、効率的な生活環境整備等を進めるために、周辺の自然環境や営農環境等との調和に十分に配慮し、農林漁業に関する土地利用との調整を図った上で、都市計画制度（用途地域、特定用途制限地域、地区計画、風致地区等）を計画的に活用することについては許容します。

## 【用途地域外における秩序ある都市的土地利用の検討区域】

区域	方針
農地集落地区 (特定用途制限地域)	・農地及び集落地を農地集落地区として位置付け、農地は、営農環境や多様な生物の住みかとしての機能、遊水機能の維持のため、保全・確保し、集落地は、周辺の田園や里山の環境と調和させながら、居住環境の改善・向上、主要公共施設等を中心とした土地利用
沿道地区 (特定用途制限地域)	・都市間連携軸となる主要な幹線道路（(国)157号、(主)北方多度線、(主)岐阜関ヶ原線、(主)岐阜大野線、(都)長良糸貫線、(一)北方真正大野線、(市)糸貫0111号線）、都市内環状連携軸となる(市)西部連絡道路線沿道において、営農環境や居住環境の保全を基本としながら、生活利便性の向上や地域振興に資する効率的な土地利用
工業系地区 (特定用途制限地域)	・(仮称)糸貫インターチェンジ周辺、(仮称)本巣パーキングエリア周辺を含む(都)長良糸貫線の沿道及び既存の工場が立地している地区周辺において、農地集落地区の居住環境、営農環境への影響に配慮した上で、工場等の集積立地及び機能維持を図り適正に規制・誘導 ・(都)長良糸貫線の沿道において、前述の規制・誘導以外に景観計画等に基づき景観に配慮した規制・誘導

## 4-2 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針

## 1. 交通施設の都市計画の決定の方針

## (1) 基本方針

## ① 交通体系の整備の方針

## ● 広域幹線道路の整備

- ・本区域と広域都市圏を結ぶ(都)東海環状自動車道については、早期整備を目指します。

## ● 幹線道路の整備

- ・本区域と周辺地域を結ぶ利便性の高い道路網を構築するために、本巣市道路網整備計画に基づく計画的・効率的な整備を進めます。
- ・(都)東海環状自動車道の(仮称)糸貫インターチェンジへのアクセス道路であり、生活や産業に必要な(都)糸貫インター線((国)157号)、(都)長良糸貫線及び(市)糸貫0007号線の整備を推進するとともに、南北方向の軸となる(国)157号及び(主)北方多度線の整備に向けた検討を進めます。

- ・ 本区域に隣接する岐阜都市計画区域との連絡道路として、北方町の（都）運動場加茂線の整備進捗を踏まえ、新たな道路整備を検討します。

● 公共交通網の充実

- ・ 本区域を南北に縦断している樽見鉄道を「公共交通軸」と位置付け、鉄道事業者及び関係機関との協力体制のもとでサービス水準の向上を目指すとともに、鉄道施設の維持・改善を推進し、利便性の向上と利用促進を図ります。
- ・ 樽見鉄道の主要駅では、周辺基盤整備の推進やバス等のその他の交通との連絡性の向上により、公共交通ネットワークの推進を図り、利用者の利便性向上に努めます。
- ・ バス路線については市民の利便性を高めるため、バス事業者や近隣市町と連携を図り、運行ルートや便数の見直しや路線の再編を検討します。

● 都市計画道路の見直し

- ・ 社会情勢の変化等を十分に勘案し、より一層効率的な地域のまちづくりを進めるため、必要に応じて都市計画道路の見直しを行いつつ、都市計画道路の整備を推進します。

② 整備水準の目標

- ・ 概ね 20 年後の整備水準の目標として、用途地域内における都市計画道路の配置密度を 0.65 km/km<sup>2</sup>とします。

**(2) 主要な施設の配置の方針**

① 道路

道路の種別	路線名
広域連携軸	(都) 東海環状自動車道
都市間連携軸	(国)157号((都)糸貫インター線を含む)、(主)北方多度線、(主)岐阜関ヶ原線、(主)岐阜大野線、(都)長良糸貫線、(一)北方真正大野線、根尾川左岸堤防道路、(市)糸貫0111号線
都市内環状連携軸	(市)西部連絡道路線、(市)糸貫0007号線

② 鉄道

- ・ 鉄道については本区域を南北に縦断する樽見鉄道とその5つの駅を配置します。

**(3) 主要な施設の整備目標**

- ・ 優先的に概ね 10 年以内に整備することを予定する施設は以下のとおりです。

種 別	名 称	備 考
道 路	(都)東海環状自動車道	一部
	(都)長良糸貫線	一部
	(都)糸貫インター線	
	(主)岐阜関ヶ原線	
	(市)糸貫 0007 号線	一部

**2. 下水道及び河川の都市計画の決定の方針****(1) 基本方針****① 下水道及び河川の整備の方針****● 下水道**

- ・ 河川の水質保全を図るため下水道への接続を促進し、生活排水の適正処理に努めます。

**● 河川**

- ・ 犀川、政田川では、新五流域総合治水対策プランに基づく治水対策として河川改修を進めるとともに、糸貫川等の主要な河川では河川沿いの状況に応じて緑化や遊歩道の適正な管理により、美しい河川風景を眺めながら歩ける空間を確保します。
- ・ むしろだ 席田用水（糸貫川）のゲンジボタル等、住民に身近で優れた生態系が維持されている自然は、地域住民の取組みと合わせて積極的な保全を図ります。
- ・ 災害に対応するため、前述した河川等の改修や重要水防箇所における水防活動に努めます。さらに、流域での総合的な対策が必要なことから民間開発等の宅地化に伴う雨水調整機能の確保、雨水排出抑制について適正に指導します。
- ・ 従前から遊水機能を有する土地において、やむを得ない開発を行う場合には、事業者に対して、代替施策の実施により従前の保水・遊水機能を保全させるなど、総合的な治水対策を推進します。

**② 整備水準の目標****● 下水道**

- ・ 汚水処理施設については、概ね 20 年後の整備水準の目標として、下水道への接続や合併処理浄化槽設置の促進により汚水処理人口普及率 97%を目指します。

**● 河川**

- ・ 県が管理する中小河川については中期的な整備水準の目標として、以下の治水安全度を

目標とし、国が管理する根尾川については、目標とする治水安全度に応じて整備を進めます。

種別	整備水準の目標（治水安全度）
河川	犀川：1/5
	政田川：1/2

### (2) 主要な施設の配置の方針

#### ① 下水道

- ・ 下水道については、北部に特定環境保全公共下水道の本巢処理区として、本巢浄化センターを配置し、現状施設の維持管理に努めます。

#### ② 河川

- ・ 本区域を南北に縦断する主要な河川として、本区域西部に根尾川、南西部に犀川、政田川、中央部に糸貫川を位置付けます。

### (3) 主要な施設の整備目標

- ・ 優先的に概ね10年以内に整備することを予定する施設は以下のとおりです。

種別	名称	備考
河川	犀川	河川改修
	政田川	河川改修

## 3. その他の都市施設の都市計画の決定の方針

### (1) 基本方針

- ・ ごみ処理については減量化やリサイクルを推進し、良好な住環境の向上と自然環境の保全に努めます。
- ・ し尿処理については、合理的な収集、処理に努めるとともに、公共下水道などの区域外においては、合併処理浄化槽の設置の促進を図ります。

### (2) 主要な施設の配置の方針

- ・ ごみ処理については、本区域北部に隣接する既存ストックヤードや最終処分場等について、維持管理に努めます。

**(3) 主要な都市施設の整備目標**

- ・ 優先的に概ね 10 年以内に整備することを予定する施設はありません。

**4-3 市街地開発事業に関する主要な都市計画の決定の方針****1. 主要な市街地開発事業の決定の方針**

- ・ 市街地整備にあたっては、既成市街地の再整備を優先して行います。その上で、集約型都市構造の実現を目指し、官民が協働した多様かつ柔軟な市街地開発事業等により良好な市街地の形成に努めます。

**2. 市街地整備の目標**

- ・ 優先的に概ね 10 年以内に実施することを予定する具体の市街地開発事業はありませんが、公共施設の整備状況や土地利用状況を踏まえ、今後、計画的かつ良好な市街地を一体的に整備する必要がある場合には、市街地開発事業を進めます。

**3. その他の市街地整備の方針**

- ・ 市街地周辺や大規模集落周辺といった地域では、宅地化を図る範囲をできる限り明確化しながら、地区計画等による社会基盤を確保できる民間開発の指導・誘導等、各地域の状況に応じた様々な手法により、良好な居住環境の形成を図ります。
- ・ (仮称)糸貫インターチェンジ及び(仮称)本巣パーキングエリア周辺、既存工業施設周辺等では、開発需要の高まりに応じ、工業、物流、交流等の施設立地を適正かつ効率的に進めるための都市基盤整備や土地利用規制を見直します。

**4-4 自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針****1. 基本方針****(1) 自然的環境の整備又は保全の方針****① 美しく豊かな環境づくり**

- ・ 本区域の恵まれた自然環境を守り、活かすことが、まちづくりにおいて重要な役割を占めます。このため、積極的に守り、継承するべき自然を明確化して、保全と共生を原則とした都市活動を促すとともに、親水空間等の自然と身近に接することができる空間づくりを進めます。

**② 自然環境の保全と共生**

- ・ 本区域の自然は、土地の環境保全や優れた生態系、美しい景観を形成する重要な要素となっており、自然に囲まれた集落地の生活環境整備や(都)東海環状自動車道等の都市基

盤整備に伴う新たな土地利用に際しても、「自然環境の保全と共生」を前提とした開発を考えます。

### ③ 身近に感じる水と緑の環境づくり

- ・ 快適で潤いのある生活環境を形成するために、各地域のまちづくりに合わせて、住民が利用しやすい都市公園等の整備・保全を図るとともに、地域住民の取組みと連携した公共空間・民有地での緑化を進めます。

## (2) 整備等水準の目標

- ・ (仮称)本巢パーキングエリア隣接地に新規公園を整備し、既存公園についても維持管理を推進することで、概ね20年後の整備水準の目標としても現在の整備水準以上を維持します。

## 2. 主要な緑地の配置の方針

良好な自然的環境を構成する主要な緑地について、緑地の機能を以下の系統別に評価し、それぞれの配置の方針を示します。

### (1) 環境保全系統

- ・ 保安林指定の維持やボランティアの活用等により、貴重な緑地の適正な保全・管理を進めるとともに、国定公園である根尾川の一部流域の保全も推進します。
- ・ 一定規模以上の開発行為における植栽の義務化や景観計画に基づく緑地の確保など、地域住民が主体となって行う緑のまちづくりを促し、民有地での緑化を進めます。

### (2) レクリエーション系統

- ・ 本区域北部に隣接する文殊の森や中央部に位置する船来山等の既存の憩いの場については、周辺のまちづくりとの連携や、それぞれの特性を踏まえた適切な保全・管理により、機能向上に努めます。
- ・ 身近な憩いの場としての都市公園や広場は、地区間のバランスとともに、道路、河川等の各種基盤整備との連携や、地区計画制度等の活用に留意しながら、計画的に確保します。

### (3) 防災系統

- ・ 公共施設、小中学校等においては、防災資機材の充実を図るとともに、防災空間として位置付けます。
- ・ (仮称)本巢パーキングエリア隣接地には支援物資の集積所、応急復旧活動の拠点などの防災機能を兼ね備えた公園を整備します。

**(4) 景観構成系統**

- ・市街地を流れる根尾川、糸貫川、犀川等の主要な河川については、緑の連続性を確保するとともに、親水性豊かな緑地空間として位置付けます。また、市街地を取り囲む山林や農地を保全し、本区域の特徴である田園景観として位置付けます。
- ・市街地周辺の良好な田園風景や、まちの背景となる森林風景を損なう建築物の形態及び立地の制限についての検討（地区計画、風致地区等の指定）を進め、景観行政団体として景観計画に即した施策に取り組みます。

**3. 実現のための具体の都市計画制度の方針**

- ・配置された緑地について、整備又は保全を実現するために選択する具体の都市計画制度は以下のとおりです。

種別	整備・保全の内容
公園・緑地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の公園等についても都市公園としての位置付けを検討し、維持・管理・改修を進めるとともに、今後、公園整備のための計画を策定し、都市計画公園の新規整備を検討</li> <li>・糸貫川等の主要な河川では、河川沿いの状況に応じた緑地や遊歩道の適正管理</li> </ul>

- ・良好な自然的環境の保全あるいは災害時の緩衝機能を目的として、土地利用に関して各種法律に基づく規制（農業振興地域、保安林、砂防指定地、急傾斜地崩壊危険区域等）が定められていますが、今後もその方針を維持します。

**4. 主要な緑地の確保目標**

- ・優先的に概ね10年以内に整備することを予定する施設は以下のとおりです。

種別	名称	備考
公園	(仮称) 本巢パーキングエリア公園	約 2.3ha

# 1 用語の解説

## 1 共通（語尾等の表現について）

本文中における各種方針の記述がどのような意思を持っているかを明確に示すため、語尾等の表現は以下のとおり統一しています。

語 尾 等	説 明
～進めます。 ～行います。 ～するものとします。 ～定めます。 ～強化します。 ～構築します。 ～集約します。 ～実施します。 ～推進します。 ～導入します。 ～保全します。 ～誘導します。 ～抑制します。 ～配置します。	<b>【定義】</b> ・ 県・市町が主体的に、目標年次である 2030 年までに実行(※)する施策又は実行済み（実行中）の施策。 例) インターチェンジの周辺はその好条件を活かし工業団地を形成します。 例) 生産性の高い農地については、保全します。 ※「実行」とは、土地利用系の場合は都市計画決定すること、都市施設系の場合は都市計画決定する又は整備することをいう。
～位置付けます。 ～検討します。	<b>【定義】</b> ・ 目標年次である 2030 年までに、その方針（実行主体等も含む）を定め、実行するもの。
～促進します。 ～努めます。 ～図ります。 ～目指します。 ～目標とします。	<b>【定義】</b> ・ 目標年次である 2030 年までに実現されることを目指す又はそのための施策を実行中のもの。
(仮称)〇〇	都市計画決定を予定する都市計画施設（道路、公園等）名称
(国)〇〇号	都市計画道路以外の一般国道
(主)〇〇線	都市計画道路以外の主要地方道
(一)〇〇線	都市計画道路以外の一般県道

## 2 個別

用 語		説 明
あ	ICT	Information and Communication Technology の略。情報通信技術。
	ITS	Intelligent Transport Systems の略。高度道路交通システムと直訳され、道路交通の安全性、輸送効率、快適性の向上等を目的に、最先端の情報通信技術等を用いて、人と道路と車両とを一体のシステムとして構築する新しい道路交通システムの総称。
	アクセス	道路や交通機関を用いて、ある地点や施設へ到達すること。
	アメニティ	快適性。住み心地の良さ。
い	インバウンド	訪日外国人旅行客誘致。
	インフラ	インフラストラクチャーの略。道路、橋りょう、ダム、学校、病院、鉄道、上下水道、電気、ガス、電話など経済・生産基盤を形成するものの総称。社会資本。
う	魚つき保安林	森林法において、水源のかん養、土砂災害の防備など、特定の公共目的の達成のために指定される 17 種類の「保安林」の一つ。魚つき保安林は、水面に対する森林の陰影の投影、魚類等に対する養分の供給、水質汚濁の防止等の作用により魚類の生息と繁殖を助ける。
	雨水流出抑制施設	治水対策の一環として、敷地内に降った雨水をそれぞれの敷地内で貯留、浸透させることにより、洪水発生を防止することを目的とした施設。具体的には、地下貯留槽などの貯留施設と、浸透ます、透水性舗装などの浸透施設がある。
	ウォーターフロントパーク	河川、湖沼などの水際、水辺の公園。
え	NPO	Non-Profit Organization の略。様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない団体の総称。 そのうち、「特定非営利活動促進法」に基づき、法人格を取得した法人を、「特定非営利活動法人（NPO 法人）」という。
お	大型商業施設	主に大規模小売店舗立地法（大店立地法）が適用される店舗面積 1,000 m <sup>2</sup> 超の大型商業施設（店舗）をいう。
	オープンスペース	公園・広場・河川・農地など、建物によって覆われていない土地、あるいは敷地内の空き地を総称していう。都市計画法上の用語としては「公共空地」がある。建築基準法では、総合設計制度における空き地（公開空地）がある。
	汚水処理人口普及率	国土交通省、農林水産省、環境省がそれぞれ所管する下水道、農業集落排水施設等、浄化槽等の汚水処理施設の普及状況を、それらを使える人口の総人口に対する割合で表した指標。
	オリベストリート	岐阜県が提唱する、県出身の先人・古田織部が好んだ自由奔放、独創性などの特徴・理念（オリベイズム）を現代の生活全般に反映させ、岐阜県の産業・文化の活性化を進めるプロジェクト（オリベプロジェクト）の一つの取り組みであり、陶磁器のまちとして発展してきた資産を活かした「賑わいのまちづくり」、「ビジターズ産業おこし」として多治見市が進めるプロジェクト「オリベストリート構想」の対象として選定された地区。

用 語		説 明
	温室効果ガス	大気圏にあって、地表から放射された赤外線の一部を吸収することにより温室効果をもたらす気体の総称のこと。人間活動によって増加した主な温室効果ガスには、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロンガスがある。
	オンデマンドバス	予約型の運行形態方式のバス。運行方式、運行ダイヤ、発着地の自由度の組み合わせにより、多様な運行形態が存在する。
か	街区公園	都市公園のうち、もっぱら街区内に居住する者の利用に供することを目的とする公園。誘致距離 250m の範囲内で 1 か所あたり面積 0.25ha を標準として設置する。
	開発許可制度	都市計画法における開発行為に対する許可制度。都市の水準を確保するため、一定規模以上の開発行為に対して、道路などの必要な公共施設の整備などの技術的基準を設けている。市街化調整区域においては、一定のものを除き開発行為自体を制限している。
	可住地	居住に利用できる土地。岐阜県の都市計画基礎調査では、水面、その他自然地（原野・牧野、荒地を除く）、道路用地、交通施設用地、公共空地、公共施設用地、その他公的施設用地、商業用地、工業用地を「非可住地」とし、それ以外を「可住地」としている。
	合併浄化槽	し尿と生活雑排水をあわせて処理する浄化槽のこと。
	観光地区	自然環境に恵まれた地域において、観光施設又はレクリエーション施設を特定の地域に限定して集中立地を図るために定められる地区。
	緩衝機能	隣接、近接する異種異用途の間に介在することで、両者間で生じる問題や影響を緩め和らげる働きや役割のこと。
	環状道路	都市の一部又は全部を囲み、都心に用事のない交通を迂回させることを目的とする道路。
	幹線街路	都市計画道路の一つ。都市の主要な骨格をなし、近隣住区等における主要な道路又は外郭を形成する道路で、発生又は集中する交通を当該地区の外郭を形成する道路に連結するもの。
	既存ストック	これまでに整備された都市基盤施設や公共施設、建築物などの蓄積のこと。
き	急傾斜地崩壊危険区域	がけの斜面角度 30 度以上、かつ高さが 5m 以上のがけ地のうち、崩壊のおそれがあるとして法律により知事が指定した区域。
	狭隘（きょうあい）道路	幅員が狭く、自動車の通行に支障を来す道路。
	緊急輸送道路	災害直後から、避難・救助をはじめ、物資供給等の応急活動のために緊急車両の通行を確保すべき重要な路線で、高速自動車国道や一般国道及びこれらを連絡する幹線的な道路。
	近隣公園	都市公園のうち、主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園。近隣住区あたり 1 か所を誘致距離 500m の範囲内で 1 か所あたり面積 2ha を標準として配置する。
	近隣商業地域	都市計画法に基づく用途地域の一種。近隣の住宅地の住民に対する日用品の供給を行うことを主たる内容とする商業その他の業務の利便を増進するための地域などに指定される。

用 語		説 明
く	区域区分	<p>都市計画区域を市街化区域と市街化調整区域とに区分することで、一般的に「線引き」と呼ばれているもの。無秩序な市街地の拡大による環境悪化の防止、計画的な公共施設整備による良好な市街地の形成、都市近郊の優良な農地との健全な調和など、地域の実情に即した都市計画を樹立する上で根幹をなす。昭和 43 年の都市計画法改正により導入された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 12 年の都市計画法改正により、都市計画区域毎に区域区分を定めるか否か、また定める場合にはその方針について、都市計画区域マスタープランの中で示すこととなった。</li> <li>区域区分の決定にあたっては、当該都市計画区域の人口・産業動向、都市的土地利用の現況及び動向を勘案するとともに、都市活動と農林漁業との調和に十分配慮して適切に設定する必要があるとされている。</li> </ul>
	区画道路	都市内道路のうち、交通の機能よりも、沿道の出入り機能の役割が大きい道路で、地域住民の日常生活に密着した道路。
け	経営耕地面積	農家が経営する耕地（田、畑、樹園地の計）の面積をいう。経営耕地は自己所有地と借入耕地に区分される。
	景観行政団体	景観法により定義される景観行政を司る行政機構。政令指定都市又は中核市にあつてはそれぞれの地域を管轄する地方自治体が、その他の地域においては基本的に都道府県がその役割を負う。ただし、景観法に基づいた規定の事務処理を行うことを都道府県知事と協議し、同意を得た市町村の区域にあつては、それらの市町村が景観行政団体となる。また、景観行政団体は、景観法に基づいた項目に該当する区域に景観計画を定めることができる。景観計画区域に指定された区域では、建築や建設など景観にかかわる開発を行う場合に、設計や施工方法などを景観行政団体に届け出るなどの義務が生じる。
	景観計画	景観法に基づき、景観行政団体である都道府県や市区町村が定める計画。地域の景観形成の総合的な基本計画であり、景観計画の区域や景観形成の方針、行為ごとの規制内容等を定める。
	景観条例	景観づくりの理念や目標、具体的なまちづくりの誘導や市民の意見の反映などに関し、必要な手続や方策等を制度的に定める条例。県単位又は市町村単位で、議会の議決を経て制定される。
	景観地区	建築物の形態意匠の制限等により、市街地の良好な景観の形成を図るために定められる地区。
	形態規制	<p>用途制限との関連で、地域ごとに建物の建て込みや規模（建蔽率、容積率、道路斜線、日影）などについて規制しようとするもの。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 建蔽率：建築物の建築面積の敷地面積に対する割合。</li> <li>2) 容積率：建築物の延べ面積の敷地面積に対する割合。</li> <li>3) 日影規制：隣地に与える日照の影響により中高層の建築物の高さなどを制限する。</li> <li>4) 斜線規制：道路・隣地からの距離により建築物の高さを制限する。</li> </ol>

用 語	説 明
	<p>下水道</p> <p>生活排水、工場排水、雨水等の下水を排除するために設けられる排水管などの排水施設、これに接続して下水を処理するために設けられる処理施設、これらの施設を補完するために設けられるポンプ施設を含む施設の総体で、公共下水道、流域下水道及び都市下水路の3種類に分類される。</p> <p>下水道の設置・管理は、公共下水道及び都市下水路については原則として市町村が行い、流域下水道については原則として都道府県が行う。</p>
	<p>ゲストハウス</p> <p>一般的に、比較的安価な料金で利用できる、主にバックパッカー向けの宿泊施設。</p>
	<p>減災</p> <p>災害の被害を軽減すること。</p>
	<p>建築協定</p> <p>住民の合意のもとに、一定地域内の建築物の構造・用途・形態・デザインなどに関する基準を定める建築基準法に基づく制度。</p>
	<p>建蔽率</p> <p>建築物の建築面積の敷地面積に対する割合のこと。</p>
ハ	<p>広域公園</p> <p>都市公園のうち、主として一つの市町村の区域を超える広域のレクリエーション需要を充足することを目的とする公園。地方生活圏など広域的なブロック単位ごとに1か所あたり面積50ha以上を標準として配置する。</p>
	<p>広域道路</p> <p>県内及び他県との交流を支え地域の連携を促す幹線道路で、高規格道路と一体的に機能する一般国道及び主要な都道府県道等のこと。</p>
	<p>広域防災拠点</p> <p>広域的な災害対策活動が円滑かつ効率的に行われるための活動拠点。主に人やモノの流れを扱う拠点となり、救援物資の中継・分配機能、広域支援部隊の一次集結・ベースキャンプ機能、海外からの支援物資・人員の受入れ機能、災害医療支援機能、物資等の備蓄機能の全て又は一部を機能として持つ。</p>
	<p>高規格幹線道路</p> <p>自動車の高速交通の確保を図るために必要な道路で、全国の主要都市間を連絡し、全国的な自動車交通網を構成する自動車専用道路。</p>
	<p>公共下水道</p> <p>主として市街地における下水を排除又は処理するため、地方公共団体が計画、設置、管理する下水道。単独公共下水道、流域関連公共下水道及び特定環境保全公共下水道がある。</p>
	<p>公共車両優先システム (PTPS)</p> <p>交通管理者の交通管制システムとバス事業者のバスロケーションシステムとを有機的に結合したシステム。路上の光学式車両感知器とバス車載装置間で双方向通信を行い、バス優先信号制御、バスレーン内違法走行車への警告、バス運行管理支援、所要時間表示などをリアルタイムで行う。</p>
	<p>公共水域</p> <p>公共利用のための水域や水路のことをいい、河川、湖沼、港湾、沿岸海域、公共溝渠、かんがい用水路、その他公共の用に供される水域や水路をいう（ただし、下水道は除く）。</p>

用 語	説 明
工業地域・準工業地域	都市計画法に基づく用途地域の一種。主として工業の利便を増進するために定める地域。工業地域内ではホテル・キャバレー等の風俗営業施設、映画館、学校、病院等の建築物は建てられない。 これに対して、準工業地域は主として環境の悪化をもたらすおそれのない工業の利便を増進するために定める地域であり、最も制限が緩い用途地域であるが、火薬等の危険物の製造工場や貯蔵施設のほか、悪臭、騒音、健康阻害等のおそれのある工場などの建築物は建てられない。
交通結節点	異なる交通手段（場合によっては同じ交通手段）を相互に連絡する乗り換え・乗り継ぎ施設。具体的な施設は、鉄道駅、バスターミナルなど。
高度地区	都市計画法に基づく地域地区の一つで、市街地の環境の維持又は土地利用の増進を図るため、建築物の高さの最高限度又は最低限度を定める地区。
高度利用地区	都市計画法に基づく地域地区の一つで、建築物の敷地などの統合を促進し、小規模建築物の建築を抑制するとともに、建築物の敷地内に有効な空地を確保することにより、土地の高度利用と都市機能の更新を図る地区。
交流産業	ある地域が他の地域の人々を招き入れ、情報や文化を交換し、交流することに関わる産業の総称。具体的には、イベント・コンベンションの開催・誘致、特産品の開発・販売、地域の情報発信などが挙げられる。
交流人口	地域外からの旅行者や短期滞在者。
コミュニティ	人々が共同体意識を持って共同生活を営む一定の地域、及びその人々の集団。地域社会。共同体。
コミュニティバス	交通空白地域・不便地域の解消等を図るため、市町村等が主体的に計画し、一般乗合旅客自動車運送事業者に委託して運送を行う乗合バス、もしくは、市町村自らが自家用有償旅客運送者の登録を受けて行う市町村運営有償運送により運行するものをいう。
コミュニティ・プラント	下水道区域以外の住宅団地等から排出されるし尿と生活雑排水を集合処理するために市町村が設置・管理する地域し尿処理施設。
コンパクト+ネットワーク	人口減少下において、生活に必要な各種のサービスを維持し、効率的に提供していくために、各種機能を一定のエリアに集約化（コンパクト化）するとともに、各地域をネットワーク化することで各種の都市機能に応じた圏域人口を確保するという考え方。
コンパクトシティ	都市内の中心市街地、主要な交通結節点周辺等から、都市機能の集積を促進する拠点（集約拠点）を地域特性を踏まえて選択して位置付け、複数の集約拠点と都市内のその他の地域とを公共交通を基本に有機的に連携させる拠点ネットワーク型の「集約型都市構造」のこと。
さ サイン	目印・表示・標識などをいう。特に、不特定多数の利用者を対象として公的機関が設置し、日常社会生活の中で主として行動の指標となる情報を伝えるものとして、公的サインがある。

用 語	説 明
里山	集落、農地の周辺にある農業・生活に使われていた森林。(竹林を含む)
砂防えん堤	土砂の流出を防止したり調節したりするために設けるもの。
砂防指定地	大雨などで山の斜面や谷などが浸食されて発生する土砂の流出による被害を防止するために、砂防設備が必要な土地又は一定の行為の制限を行う土地として国土交通大臣が指定した土地のこと。
シェアサイクル	相互利用可能な複数の自転車置き場からなる、自転車による面的な都市交通システム。
市街化区域	都市計画区域のうち、「既に市街地が形成されている区域」と、「概ね 10 年以内に優先的かつ計画的に市街化を図る区域」。用途地域などを定め、秩序ある市街地形成を図るとともに、市街化を促進する都市施設を定め、市街地開発事業などによって整備、開発を積極的に進めるべき区域とされる。
市街化調整区域	都市計画区域のうち「市街化を抑制すべき区域」。市街化調整区域内では、原則として、農林漁業用の建物等を除き開発行為は許可されず、また用途地域を定めないこととされ、市街化を促進する都市施設も定めないものとされている。
市街地開発事業	一定の地域について、総合的な計画に基づき、公共施設、宅地や建築物の整備を一体的に行う、面的な市街地の開発事業。土地区画整理事業、市街地再開発事業などが該当する。
市街地再開発事業	都市再開発法に基づき、市街地の土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図ることを目的に、建築物及び建築敷地の整備並びに公共施設の整備を行う事業。事業種別には第一種（権利変換方式）と第二種（管理処分方式）がある。
寺社叢（じしゃぞう）	寺社の敷地内や参道沿いの庭園樹木や森林。
地震防災対策推進地域	南海トラフ地震が発生した場合に著しい被害が生じるおそれがあるため、地震防災対策を推進する必要がある地域（南海トラフ地震に係る地震防災対策推進地域）。国が全国で 29 都府県・707 市町村を指定おり、県内では岐阜市、大垣市、多治見市、関市、中津川市、美濃市、瑞浪市、羽島市、恵那市、美濃加茂市、土岐市、各務原市、可児市、山県市、瑞穂市、郡上市、下呂市、本巣市、海津市、羽島郡、養老郡、不破郡、安八郡、揖斐郡、本巣郡、加茂郡、可児郡が指定されている。
自然環境保全地域	自然環境保全法及び都道府県条例に基づき、自然環境の保全や生物の多様性の確保のために指定された地域。
自然的土地利用	田畑などの農林業的土地利用に、自然環境の保全を旨として維持すべき森林、原野、水面、河川などの土地利用を加えたもの。
地場産業	特定の一地方において、その地方の資源・労働力を背景に古くから発展し、その地に定着している産業。
市民緑地	都市内の民有地の緑を保全し、良好な都市環境を確保するために、樹林地などの所有者と地方公共団体などが契約を行い、地方公共団体などが施設を整備し、市民緑地として一定の期間管理し、住民に公開するもの。所有者は土地にかかる税金の優遇措置が与えられる。
社会基盤	産業や社会生活の基盤となる施設。道路、鉄道など産業基盤の社会資本、および学校、病院等の生活関連の社会資本など。インフラ。

用 語	説 明	
住区基幹公園	比較的小規模な公園のことで、街区公園、近隣公園、地区公園の種類がある。	
終末処理場	下水を最終的に処理して、河川その他の公共の水域に放流するために下水道施設として設けられる処理施設及びこれを補完する施設のこと。	
集約型都市構造	⇒コンパクトシティ【⇔分散型都市構造】	
重要水防箇所	堤防の大きさが不足している箇所、洪水が堤防や地盤を浸透し湧き出る箇所、堤防の法くずれの危険性のある箇所など、洪水時に危険が予想され、重点的に巡視点検が必要な箇所を示すもの。	
重要伝統的建造物群保存地区	文化財保護法第 144 条第 1 項に基づき、伝統的建造物群保存地区の区域の全部又は一部で我が国にとってその価値が特に高いものとして文部科学大臣が選定する地区。	
循環型社会	廃棄物の発生抑制、資源の循環的な利用、適正な処分が確保されることによって、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会。	
小規模集合排水処理施設	市町村が汚水等を集合的に処理する施設であって、小規模なもの整備促進を図るため、地方単独事業により実施するもの。	
新五流域総合治水対策プラン	岐阜県は 8 つの流域に分かれており、それらの流域面積やそこに流れる河川の規模、さらにはその流域における近年の災害の発生状況や河川整備状況などを踏まえ、総合的な治水対策プランを作成する対象流域を長良川、宮川（神通川）、揖斐川、土岐川、木曾・飛騨川の 5 流域としている。その 5 流域の総合的な治水対策プランを総じて新五流域総合治水対策プラン（新五流総）という。	
親水空間	水と親しむことを主目的とした場所のこと。	
浸水想定区域 （洪水浸水想定区域）	洪水により国民経済上重大な損害を生ずるおそれがあると指定された河川が、想定し得る最大規模の降雨によって氾濫した場合に浸水が想定されるとして指定された区域。	
す	水源涵養機能	森林の土壌が、降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能。
	水棲生物	水中又は水辺に生息する生物。
	ストックマネジメント	持続可能な事業の実現を目的に、目標を定め、施設の状況を客観的に把握、評価し、長期的な施設の状況を予測しながら、施設を計画的かつ効率的に管理すること。
	ストリート・ファニチャー	道路、主として歩道上に設置される様々な街路備品。ベンチ、街路灯、標識などが挙げられる。
	スプロール	市街地が無計画に郊外へ拡大し、無秩序な市街地を形成すること。道路や下水道等の都市施設が整備されないまま低質な市街地が形成され、防災上、環境上の問題を生ずるのみでなく、市街地環境を改善するにあたって公共投資の非効率化を招くなど、社会的、経済的な困難を生ずることが弊害として挙げられる。
	スマートインターチェンジ	高速道路本線やサービスエリア、パーキングエリア等から乗り降りができるように設置されるインターチェンジ。通行可能な車両（料金支払い方法）を E T C 搭載車両に限定している。

用 語		説 明
	スローライフ	現代社会のスピードと効率を追い求める慌しい暮らしや働き方を見直し、人生をゆったりと楽しみ、生活の質を高めようという生活様式に関する思想の一つ。
せ	生活環境保全林	地域住民の生活周辺において防災機能と保健休養機能を与えてくれる森林として都道府県が指定し、治山事業として整備する森林。
	製造品出荷額等	「製造品出荷額」、「加工賃収入額」、「修理料収入額」、「製造工程から出たくず及び廃物」の出荷額及びその他の収入額の合計。
	線引き	都市計画区域を、計画的に市街化を図る市街化区域と、市街化を抑制する市街化調整区域に分けること。都市計画法では「市街化区域及び市街化調整区域との区分（あるいは単に「区域区分」）」と称している。【⇔非線引き】
そ	ソフトピアジャパン	1996年に岐阜県大垣市に誕生した、情報産業を育成、振興、集積するIT拠点。
	ゾーン30	生活道路における歩行者等の安全な通行を確保することを目的として、区域（ゾーン）を定めて最高速度30km/hの速度規制を実施するとともに、その他の安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内における速度抑制や、ゾーン内を抜け道として通行する行為の抑制等を図る生活道路対策。
た	大規模集客施設	建築基準法別表第二（か）項に掲げる建築物。劇場、映画館、演芸場若しくは観覧場又は店舗、飲食店、展示場、遊技場、勝馬投票券発売所、場外車券売場等でその用途に供する部分（劇場、映画館、演芸場又は観覧場の用途に供する部分にあっては、客席の部分に限る。）の床面積の合計が10,000㎡を超えるもの。
	大規模集客施設立地エリア	都市構造に大きな影響を与える大規模集客施設について、現在既に立地している場所や今後立地予定の場所で、計画的に適正な立地を進め、商業機能の維持と発展を図るエリアのこと。原則として、そのエリアのみを大規模集客施設が立地可能な都市構造として許容する。具体的には、立地可能な用途地域（近隣商業・商業・準工業地域）にある施設を位置づけることとしているが、立地不可能な用途地域にある施設を位置づける場合でも、今後個別に広域調整手続きを行った後、立地可能な用途への変更を行う予定としている。
	大規模集客施設立地規制地区	特別用途地区の一つで、中心市街地活性化への影響が大きいと考えられる、準工業地域における大規模集客施設の立地を制限するために定められる地区。
	第1次産業	産業を3部門に分類した場合の一区分。日本標準産業分類の大分類では農業、林業、漁業がこれに該当する。
	第2次産業	産業を3部門に分類した場合の一区分。日本標準産業分類の大分類では鉱業、採石業、砂利採取業、建設業、製造業がこれに該当する。

用 語	説 明
第3次産業	産業を3部門に分類した場合の一区分。日本標準産業分類の大分類では電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、金融業、保険業、不動産業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業、教育、学習支援業、医療、福祉、複合サービス事業、他に分類されないサービス業、公務がこれに該当し、農林水産業、鉱工業、建設業以外のサービス生産活動を主体とするすべての業種が含まれる。
タウンマネジメント	市民、行政、商店街など地域を構成する様々な主体が参加し、広範な問題を内包するまちの運営を横断的・総合的に調整・プロデュースし、中心市街地の活性化と維持に主体的に取り組むこと。中心市街地活性化法においても、このタウンマネジメント機関の役割が重視されている。
立場（たてば）	江戸時代に、五街道等で次の宿場町が遠い場合その途中に、また峠のような難所がある場合その難所に、休憩施設として設けられたものをいい、茶屋や売店が設けられていた。俗にいう「峠の茶屋」も立場の一種である。馬や駕籠の交代を行うこともあった。藩が設置したものや、周辺住民の手で自然発生したものもある。また、立場として特に繁栄したような地域では、宿場と混同して認識されている場合がある。継立場（つぎたてば）あるいは継場（つぎば）ともいう。
地域高規格道路	高規格幹線道路を補完し、地域相互の連携交流や空港・港湾などの広域交通拠点などを連結する規格の高い道路。4車線以上の道路で時速60～80km以上で高速走行できる自動車専用道路かこれと同等の機能を持つ道路。
地域公共交通網形成計画	地域公共交通の活性化及び再生に関する法律第5条第1項に基づいて地方公共団体が作成する、持続可能な地域公共交通網の形成に資する地域公共交通の活性化及び再生を推進するための計画。
地域森林計画対象民有林	民有林を対象として、森林計画区ごとに都道府県知事が全国森林計画に即して5年ごと10年を1期として立てる計画。
地域地区	都市計画法に基づく都市計画の種類の一つで、都市計画区域内の土地をその利用目的によって区分し、建築物などについての必要な制限を課すことにより、地域又は地区を単位として一体的かつ合理的な土地利用を実現しようとするもの。
地域包括ケアシステム	住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される体制。
地域防災計画	ある一定の地域において、災害が発生し、又は発生するおそれがある場合に、各防災機関の任務を明確にし、全力をあげて災害の発生を防止し、さらに応急的援助を行うなど被害の軽減に努めるよう、事前の対策をまとめたもの。
地区計画	都市計画法に定められた制度の一つで、地区の特性にふさわしい良好な都市環境の維持・形成を図るために、必要な事項を定める制度。ある地区が目指す将来像を示したり、生活道路の配置や建築物の建て方のルールなどを定める。住民等の意見を反映して、その地区独自のきめ細かなまちづくりルールを定めることができる。

ち

用 語	説 明
	<p>治水安全度</p> <p>水害に対する安全性を示す指標であり、通常は過去の実績から統計的に算出される降雨の年超過確率で表す。例えば、「〇〇川の治水安全度は 1/10 である」といった場合、10 年に 1 回程度降る大雨でも水害が起きない可能性が高いことを意味する。計画上の治水安全度は、建設省（当時）河川局監修の河川砂防技術基準（案）同解説（計画編）（平成 9 年）によれば、「計画の規模（治水安全度）は、河川の重要度や被害の実態、経済効果等を総合的に考慮して定める」とされている。</p>
	<p>駐車場整備地区</p> <p>都市計画法に基づく地域地区の一つで、商業地区や住居地区内で、自動車交通の多い地区において、道路の効用を保持し、円滑な道路交通を確保するため、駐車場の整備を推進する必要がある地区。</p>
	<p>中心市街地活性化基本計画</p> <p>地方都市の個性や独自性を活かし、中心市街地の総合的な魅力の増進と活性化を図るための計画を地方公共団体から募り、優れた計画を認定して事業を積極的に推進する計画。</p>
	<p>超高齢社会</p> <p>高齢化率（総人口に占める 65 歳以上の人口割合）が 21% を超える社会。高齢化率が 7% を超えたときに高齢化社会、14% を超えたときに高齢社会と分類している。</p>
	<p>鳥獣保護区</p> <p>鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（鳥獣保護法）に基づき、鳥獣の保護又はその生息地の保護を図るために指定される区域。</p>
	<p>調整池</p> <p>短時間の集中的な降雨などにより、増水しつつある河川への洪水流出量を抑制するための施設。</p>
つ	
て	<p>DID</p> <p>Densely Inhabited District の略。人口集中地区と直訳され、国勢調査の集計のために設定される統計地域で、人口密度が 40 人/ha 以上の国勢調査の調査区が集合し、合計人口が 5,000 人以上となる地域。</p> <p>低炭素社会</p> <p>二酸化炭素の排出が少ない社会のこと。低炭素型社会、脱炭素社会ともいう。</p> <p>低・未利用地</p> <p>土地基本法において、土地は国民のための限られた貴重な資源であり、適正かつ合理的な利用をすべきものとして位置付けられているが、こうした観点に立ったときに、本来、建築物などが建てられその土地にふさわしい利用がなされるべきと考えられる土地において、そのような利用がなされていない場合、これを一般的に低・未利用地という。</p> <p>同種概念に都市計画法に基づく遊休土地がある。都市計画運用指針では、未利用とは何らの用途にも供されていない状態、低利用とは対象土地の利用の程度が周辺地域における同一の用途、又はこれに類する用途に供されている土地の利用程度と比較して著しく劣っている状態をいう。</p>

用 語		説 明
	テクノプラザ	VR技術やロボット技術など科学技術に関する各研究開発機能が集積する研究開発拠点であり、「IT」と「ものづくり」の融合による産業の高度化・情報化・及び新産業の創出を目指している。情報提供や人材育成・研究開発支援機能をもたせる地域産業の高度化を推進する中核拠点として整備された施設で、県有施設である岐阜県科学技術振興センターと第三セクターの株式会社VRテクノセンターから成る合築施設となっている。
	デマンド型交通	予約型の運行形態の輸送サービスを指す。路線定期型交通と異なり、運行方式、運行ダイヤ、発着地の自由度の組み合わせにより様々な運行形態が存在する。
	伝統的建造物群保存地区	都市計画法に基づく地域地区の一つで、価値のある伝統的建造物群及び周辺環境を保存するために指定される地区。建造物、土地の形質、樹木など現状の変更に対して規制を受ける。
と	東濃研究学園都市	東濃西部地域における先端科学技術研究施設が集積した都市のこと。研究者により良い環境を提供するため、クオリティーの高い居住空間、交流施設などを整備し、世界に誇ることができる快適で高機能なまちづくりを、地域と一体となって進めている。
	特定空家	空家等のうち、(イ)そのまま放置すれば倒壊等著しく保安上危険となるおそれのある状態、(ロ)そのまま放置すれば著しく衛生上有害となるおそれのある状態、(ハ)適切な管理が行われていないことにより著しく景観を損なっている状態、(ニ)その他周辺の生活環境の保全を図るために放置することが不適切である状態にあると認められるもの。
	特定環境保全公共下水道	公共下水道のうち、市街化区域以外の区域において設置される下水道。
	特定用途制限地域	都市計画法に基づく地域地区の一つで、用途地域が定められていない地域（市街化調整区域を除く）において、良好な環境の形成・保持の観点から、望ましくない用途の建築物などの建築を制限する地域。
	特別業務地区	卸売市場等の流通業務施設を集中立地及び幹線道路沿い等で沿道サービス施設の立地を図るために定められる地区。
	特別工業地区	特別用途地区の一つで、周辺地域との環境保全を図りながら地場産業の育成を図る等のために定められた地区。
	特別用途地区	都市計画法に基づく地域地区の一つで、用途地域を補完するものとして、特別の目的から特定の用途の利便の増進又は環境の保護等を図るために定める地区。特別工業地区などがある。

用 語	説 明
特別緑地保全地区	都市計画区域内の緑地の良好な自然的環境を保全するために定められる地区。都市緑地法第 12 条に規定された制度。2004 年の旧都市緑地保全法の改正（同改正により法律名も改称）により、従前の都市緑地保全地区の規定が、都市緑地保全地域及び特別都市緑地保全地区の規定として改められている。都市計画法及び関連法令の規制を受けるべき土地として指定される「都市計画区域」内で良好な自然環境を形成している緑地のうち、市町村が都市計画に「地域地区」の一つとしてその区域を定めた緑地。神社、寺院等と一体となって文化的意義を有するもの、風致・景観が優れ、地域住民の生活環境として必要なもの、動植物の生息地又は生育地で保全する必要があるものなどが設定される。
都市型水害	アスファルト舗装の道路や密集したコンクリート建物は地中への雨水の浸透を低下させる。このような都市において、局地的な豪雨による雨水が一気に下水道や中小河川へ流れ込み、排水処理機能がこれに追いつかない場合に雨水があふれ出すことにより発生する水害。
都市農業	市街地及びその周辺の地域において行われる農業のこと。
都市基幹公園	都市公園のうち、都市の骨格を形成する大規模な公園であり、市民全般を対象としたもの。総合公園と運動公園によって構成される。
都市機能	一般的には都市及びそこで営まれる人間社会を構成する主要な機能。例えば「居住機能」「工業生産機能」「物流機能」「商業・業務機能」「行政機能」「文化機能」「レクリエーション機能」などの都市的な機能のほか、「自然機能」や「農業機能」もそれに含んで指す場合も多い。なお、都市インフラ（道路・鉄道、公園緑地、上下水道、都市河川などの都市基盤施設）のうえに上記のような都市機能が配置され、ひとつの都市構造を形成するが、駅、インターチェンジ、空港などの交通施設、公園緑地などは、インフラでもあり、同時に都市機能でもある。
都市機能誘導区域	医療・福祉・商業等の都市機能を都市の中心拠点や生活拠点に誘導し集約することにより、これらの各種サービスの効率的な提供を図る区域。都市再生特別措置法に基づいて市町村が作成する立地適正化計画で定める。
都市計画区域	都市計画法とその関連法令の適用を受けるべき土地の区域。具体的には、自然的及び社会的条件並びに人口、土地利用、交通量等の現況及び推移を勘案して、一体の都市として総合的に整備し、開発し、及び保全する必要がある区域について都道府県が指定する。
都市計画区域マスタープラン	都市計画法第 6 条の 2 の規定に基づく都市計画区域の整備、開発及び保全の方針のこと。一体の都市として整備、開発及び保全すべき区域として定められる都市計画区域全域を対象として、その区域ごとに、都道府県が一市町村を超える広域的な見地から、区域区分をはじめとして都市計画の基本的な方針を定める。

用 語	説 明
都市計画公園	都市計画区域内において、都市計画法 11 条の都市施設として都市計画決定された公園。公園の種別としては、街区公園、近隣公園、地区公園、総合公園、運動公園、広域公園、特殊公園があるが、公園の機能に応じた規模の適正化を図るため、公園種別に応じた規模を基準として定める。公園、緑地、広場、墓園その他の公共空地に関する都市計画は、面積が 10ha 以上については広域的見地から決定すべき都市施設又は根幹的都市施設として都道府県知事が、その他については市町村が定める。
都市計画道路	都市の基盤的施設として都市計画法に基づき都市計画に定められた道路のこと。以下の 4 種類がある。 ①自動車専用道路 ②幹線街路 ③区画街路 ④特殊街路
都市計画法	都市計画の内容及びその決定手続き、開発許可・建築制限などの都市計画制限、都市計画事業の認可・施行などについて定めた法律。昭和 44 年（1969 年）施行。
都市公園	都市公園法にいう都市公園には、以下のものがある。 ①国営公園（広域的な利用に供するもの及び国家的な記念事業等として設置するもの） ②地方公共団体が設置する都市公園（街区公園、近隣公園、地区公園、総合公園、運動公園、広域公園等）
都市高速鉄道	都市における鉄道のうち、都市計画上必要な都市施設として都市計画法に基づき定められたものをいう。
都市再生整備計画	都市再生特別措置法第 46 条第 1 項に基づき市町村が作成する、都市の再生に必要な公共公益施設の整備等を重点的に実施するための計画。
都市施設	道路、公園、下水道など、都市の骨格を形成し、円滑な都市活動を確保し、良好な都市環境を保持するための施設の総称。都市計画法第 11 号において道路、鉄道などの交通施設や公園、緑地などの公共空地等を都市施設としている。これらの都市施設は、土地利用、交通などの現状、将来の見通しを勘案して、適切な規模で必要な位置に配置することにより、円滑な都市活動を確保し、良好な都市環境を保持するように定めることとされている。
都市的土地利用	主として都市における生活や活動を支えるため、人為的に整備、開発された住宅地、工業用地、事務所・店舗用地、一般道路等による土地利用のこと。
都市のスポンジ化	都市のなかで、小さな敷地単位で低未利用地が散発的に発生する現象。
都市緑地	主に都市の自然的環境の保全・改善及び健康で文化的な都市生活の確保の用に供するために設けられる緑地。
土砂災害危険箇所	急傾斜地崩壊危険箇所、土石流危険渓流、地すべり危険箇所の総称。
土砂災害警戒区域	急傾斜地の崩壊、土石流、地すべり等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域。（通称：イエローゾーン）

用 語		説 明
	土砂災害特別警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域。特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われる。（通称：レッドゾーン）
	土石流危険溪流	土石流の発生の危険性があり、人家に被害を及ぼすおそれのある川や沢をいう。
	土地区画整理事業	都市計画区域内の土地について、公共施設の整備改善及び宅地の利用の増進を図るために行われる土地の区画形質の変更や公共施設の整備を図る事業。土地区画整理事業の基本的な仕組みは、土地の所有者が道路、公園など公共施設用地を生み出すために土地の一部を提供（減歩）し、宅地の形を整えて交付（換地）するものである。
	土地利用計画	無秩序な市街化の防止や、土地の合理的な利用を図るための計画のこと。その実現のための手法には、区域区分（線引き）や地域地区（用途地域等）などがある。
な	内水排除	河川の水を外水と呼ぶのに対し、堤防で守られた内側の土地（人が住んでいる場所）にある水を「内水（ないすい）」と呼ぶ。内水を排除することを「内水排除」という。
	内水氾濫	内水の水はけが悪化し、建物や土地・道路が水に浸かってしまう状態。
に ぬ		
ね	年間商品販売額	1年間の当該事業所における有体商品の販売額をいい、消費税額を含む。
の	農業集落排水施設	一般の公共下水道とは別に、農業集落におけるし尿、生活雑排水などの汚水などを処理する施設。
	農業振興地域	農業振興地域の整備に関する法律（農振法）に基づき、自然的・経済的・社会的諸条件を考慮して総合的に農業の振興を図ることが必要であると認められる地域のこと。その地域の整備に関し必要な施策を計画的に推進するための措置を講ずることにより、農業の健全な発展を図るとともに、国土資源の合理的な利用に寄与することを目的とする。
	ノーマライゼーション	高齢者も若者も、障がい者も健常者も、すべて人間として普通（ノーマル）の生活を送るため、共に暮らし、共に生きていくような社会こそノーマルであるという考え方。つまり、高齢者、障がい者等があるがままの姿で、他の人々と同等の権利を享受できる社会を目指すもの。
	農用地区域	農振法に基づき、農業振興地域内において今後相当長期にわたり農業上の利用を確保すべき土地として、市町村が農業振興地域整備計画で用途（農地、採草放牧地等）を定めて設定する区域。
は	パーク・アンド・ライド	都心部等での道路交通混雑を避けるために、都市の郊外部において自動車を駐車し、鉄道・バス等の公共交通機関へ乗り換える手法。また、バスの場合は、パークアンドバスライド、自転車を利用したものをサイクルアンドライドともいう。

用 語		説 明
	配置密度	<p>都市計画道路の配置密度の考え方は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『整備水準』の定義については、あくまで改良済みであることを基本とする中で、現時点で事業中もしくは 10 年以内に事業化が見込まれる代表的な路線を対象とし、今後 20 年以内に整備される延長を目標値として計上する。</li> <li>『市街地内』の定義については、線引き都市計画区域であれば市街化区域内、非線引き都市計画区域であれば用途地域内とする。</li> <li>計上する道路については、広域的な交通処理等の交通機能や市街地内の空間形成の機能等に配慮した道路を基本として、主要な都市計画道路（自動車専用道路及び幹線街路）を計上することとする。都市計画としては、広域的な路線は他の路線と同様、市街地内における都市活動を支える重要な路線であり、県としては該当する市街地内の主要な都市計画道路を計上することが妥当であると考えている。</li> <li>「都市内道路整備プログラム策定マニュアル（案）」（平成 9 年 10 月建設省）によれば、望ましい配置密度は 3.5 km/km<sup>2</sup>。</li> </ul>
	ハザードマップ	自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図。
	バス高速輸送システム（BRT）	連節バス、公共車両優先システム（PTPS）、バス専用道、バスレーンなどを組み合わせることで、速達性・定時性の確保や輸送能力の増大が可能となる高次の機能を備えたバスシステム。
	バスロケーションシステム	バスの位置情報を GPS 車載器でリアルタイムに把握することにより、バスの現在位置・運行状況・遅れ情報等の提供を行うシステム。
	ハブ	交通の路線等が集中する場所。
	バリアフリー化	障がい者や高齢者が行う諸活動に不便な障壁（バリアー）を取り除くこと。例えば、階段の代わりに緩やかなスロープをつけたり、道路の段差をなくしたりすること。
ひ	非線引き	都市計画区域マスタープランの中で、線引き不要と都道府県が判断した都市計画区域のことをいう。平成 12 年の都市計画法改正により線引き制度（市街化区域と市街化調整区域との区分）が大幅に改正され、線引きをするか否かを、都市計画区域を定めた都道府県が、地域の実情を踏まえて、都市計画区域マスタープランの中で判断する仕組みになったことを受けたもの。
	ファサード修景	主に建築物の前面について、その外観を美しく整えること。
ふ	風致地区	都市計画法に基づく地域地区の一つで、良好な風致の保全を目的として、樹木の伐採、土地の形質の変更、建物の規模（建蔽率、高さ）などを規制する地区。風致地区内においては、建築物の建築、宅地の造成、木竹の伐採などの行為について、都道府県の条例（10ha 未満のものについては市町村の条例）により、都市の風致を維持するために必要な規制が課せられ、これらの行為をしようとする者は、あらかじめ知事（市町村長）の許可を受けなければならない。

用 語		説 明
	フレーム	人口を最も重要な市街地規模の算定根拠としつつ、これに世帯数や産業活動の将来の見通しを加え、市街地として必要と見込まれる面積。
へ	ペDESTリアンデッキ	歩行者のための人工地盤。主に、鉄道駅、バスターミナル等の交通結節点において整備されることが多く、歩行者を自動車交通と分離し、安全で快適な歩行者空間を確保する。
	ベッドタウン	大都市の周辺に位置する住宅都市。住民の大部分が大都市に通勤し、夜だけ帰ってくるところからいう。
ほ	保安林	水源の涵養、土砂の崩壊その他の災害の防備、生活環境の保全・形成等、特定の公益目的を達成するため、農林水産大臣又は都道府県知事によって指定される森林のこと。
	防火・準防火地域	都市計画法に基づく地域地区の一つで、市街地における火災の危険を防ぐため、一定の建築物を耐火建築物又は準耐火建築物にするなど、建築物の不燃化を図る地区。
	放射状道路	都市の中心地域等からその周辺へ放射状に延びる道路。
	ポケットパーク	道路沿道の公共用地を活用してつくった小公園。
	保健休養機能	森林浴やハイキングなどの森林レクリエーションをすることによって、安らぎを得たり、心身の緊張をほぐしたりする効果のこと。
	保健保安林	森林法において、水源のかん養、土砂災害の防備など、特定の公共目的の達成のために指定される 17 種類の「保安林」の一つ。森林の持つレクリエーション等の保健、休養の場としての機能や、局所的な気象条件の緩和機能、じん埃、ばい煙等のろ過機能を発揮することにより、公衆の保健、衛生に貢献する。
	ほ場整備	水田や畑を利用しやすいように整形したり大きな区画にしたりすることによって、農業が安定する農地を作り上げること。
	保存樹林	都市における美観風致の維持を図るため、「都市の美観風致を維持するための樹木の保存に関する法律（昭和 37 年 5 月 18 日法律第 142 号）」に基づき、都市計画区域内の樹木又は樹木の集団について、市町村長が指定するもの。
ま	MaaS	Mobility as a Service の略。情報通信技術を活用し、自家用車以外の交通手段による移動を 1 つのサービスと捉え、継ぎ目なく「移動」の概念。
	まちなか居住	鉄道駅周辺など、都市の中心地域（まちなか）に住むこと。市街地の郊外拡大によって生じた中心市街地の人口減少など「空洞化」の問題に対応して人口の回復を図ることができること、交通の便がよいため高齢者や子育て世代などが暮らしやすいこと、さらには郊外部の環境負荷を軽減したり社会資本の投資を都心に集中することにより投資効率を高めることができることなどのメリットがあるとされている。
み	密集市街地	老朽化した木造等の建築物が密集しており、かつ、十分な公共施設が整備されていないこと、その他の土地利用の状況から、防災上の安全性が確保されていない市街地をいう。
む	無電柱化	電線を地下に埋設することその他の方法により、電柱又は電線の道路上における設置を抑制し、及び道路上の電柱又は電線を撤去することをいう。
め	メカトロニクス産業	機械装置に電子工学的知見を融合させた技術を利用する経済活動のこと。

用 語		説 明
も	モビリティ	動きやすさ、移動性、機動性。交通分野では、人が社会的活動のために交通（空間的移動）をする能力を指す。一般にモビリティは、個人の身体的能力や交通手段を利用する社会的・経済的能力、交通環境によって左右される。
や		
ゆ	遊水機能	河川沿いの田畑等において雨水又は河川の水を一時的に貯留する機能のことをいう。洪水時の河川流量、水位の低減の役割がある。
	優良農地	集団的に存在している農地、農業に対する公共投資の対象となった農地、農業生産性の高い農地など良好な営農条件を備えている農地のこと。
	ユニバーサルデザイン	あらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。
よ	用途地域	都市計画法や建築基準法に基づいて、住居、商業、工業など市街地における大枠としての土地利用の規制・誘導を行うもので、第一種低層住居専用地域をはじめ 13 種類がある。用途地域制度が目的としているのは、適切な土地利用計画に基づく建築物の規制・誘導であり、用途混在や建築物の過密化を防止することにより、適正かつ合理的な土地利用を実現していく。基本的には市町村が定める。
	用途転換	計画的に土地利用の転換を図る場合や、従来想定されていた市街地像と異なる建築物が相当程度立地する動向にある場合などにおいて、用途地域の変更を行うこと。
ら	ライフライン	上下水道や電力、ガス供給施設などの供給処理施設、通信施設、交通施設など、人間の生命や社会的な生活の維持に直結した施設。
り	立地適正化計画	都市再生特別措置法第 81 条第 1 項に基づいて市町村が作成する、住宅及び都市機能増進施設（医療施設、福祉施設、商業施設その他の都市の居住者の共同の福祉又は利便のため必要な施設であって、都市機能の増進に著しく寄与するもの）の立地の適正化を図るための計画。
	リニア中央新幹線	東京都から甲府市附近、赤石山脈（南アルプス）中南部、名古屋市附近、奈良市附近を經由し大阪市までの約 438km を、我が国独自の技術である超電導リニアによって結ぶもの。
	リノベーション	再構築すること。人口減少や高齢化等、経済社会情勢の変化に対応した都市の再構築（リノベーション）が求められている。
	リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル	ごみになる物は断ること（リフューズ）、ごみを減らすこと（リデュース）、物を繰り返し使うこと（リユース）、資源として再利用すること（リサイクル）。
	流域関連公共下水道	公共下水道は、市町村の整備・管理による主として市街地の下水を排除し、又は処理する下水道である。このうち、終末処理場を有しているものを「単独公共下水道」、終末処理場がなく流域下水道に接続するものを「流域関連公共下水道」という。
	流雪溝・消融雪施設	流雪溝とは、除雪した雪を処分するために流す溝のこと。消融雪施設とは、積もった雪を溶かす装置のこと。
	流通業務団地	流通機能の向上及び道路交通の円滑化を図るために定められる地区。

用 語		説 明
	緑地環境保全地域	市街地及び集落地並びにこれらの周辺地にある樹林地、水辺地その他これらに類する自然環境を有する土地で、その自然環境を保全することが地域の良好な生活環境の維持に資するものとして、知事が岐阜県自然環境保全条例第 25 条の規定により指定するもの。
	緑地協定	住民の合意のもとに、一定地域内の緑化に関する自主的な基準を定める制度。
る		
れ	歴史的景観地区	古くから市街地を形成し、祭り、伝統、文化の中心、そして飛騨市のシンボルとなっていて、都市景観の形成を図る必要があると認める地区。
	歴史的風致維持向上計画	地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第 5 条第 1 項に基づいて市町村が作成する、当該市町村の区域における歴史的風致の維持及び向上を図るための計画。
	レクリエーション機能	休養や娯楽、スポーツ活動、文化芸術活動などによって心身の疲れを癒し、充足を図る機能。具体的に、このような機能を持つ施設としては、都市公園や自然公園、スポーツ施設、様々な娯楽・遊戯施設、芸術文化施設、観光地などが挙げられる。
	連続立体交差事業	都市部における道路整備の一環として、道路と鉄道との交差部において、鉄道を高架化又は地下化することによって、多数の踏切を一挙に除却し、踏切渋滞、事故を解消するなど都市交通を円滑化するとともに、鉄道により分断された市街地の一体化を促進する事業。
ろ	ロードサイド型	幹線道路等の通行量の多い道路の沿線において、自家用車でのアクセスが主たるもののこと。